

『ジェネラリストのための内科外来マニュアル』

金城光代, 金城紀与史, 岸田直樹(編)

筑波大学附属水戸地域医療教育センター水戸協同病院総合診療科 徳田安春

最近、ジェネラリスト医師が増えてきている。スペシャリストからジェネラリストへ転向する医師、スペシャリティーを持ちながらジェネラリストとしてのスキルを身につけている医師、ジェネラリスト志向の研修医や医学生など、その人口が爆発的に増えてきている。新規開業の診療所では「総合内科」の看板で開業すると患者に人気が高くなる。病院内でも「総合内科」はもはや尊敬語となっている。

このようななか、ジェネラリスト向けの書籍が最近とても人気がでてきている。救急や入院場面でよく遭遇する問題に焦点を当てた書籍が多い中、ついに総合内科の外来現場にたいへん役に立つ実践的マニュアルが出てきた。本書がそれである。著者は手稲溪仁会病院と沖縄県立中部病院の総合内科スタッフ陣であり、総合内科業界では東と西の大関クラスの病院である。手稲溪仁会病院総合内科のメンバーもともと中部病院の総合内科出身が主体となった発足しているので、兄弟大関と呼んでよい。編著者

の両金城氏と岸田氏はもともと手稲溪仁会病院での子弟関係にある。著者メンバーの芹沢氏と西垂水氏も沖縄県立中部病院研修出身であるが、手稲溪仁会病院で両金城氏と同僚であり岸田氏の指導医であった。完成度の高い総合内科医グループが書いた信頼性の高いマニュアルである。

各章冒頭の疾患別戦略リストは、多忙な外来現場に即応でき便利である。内容もアルゴリズムや表が多用されており、理解しやすく記憶しやすい。コラム的に挿入された Physician Memo はクリニカルパールが満載である。クリニカルパールの神様であるティアニー氏が推薦のことばで内科外来スキル習得の重要性について深く語っている。総合内科外来スキルの完成度を高めるため、内科系外来に従事するすべての医師が本書を読まれるよう推薦する次第である。

● A5 変型／頁 576／定価 5,460 (本体 5,200 円 + 税 5%)

2013 年 [ISBN978-4-260-01784-8] 医学書院刊